

# 研究所だより

第340号  
2014年6月25日  
発行：土佐清水市教育研究所  
TEL 82-3016

下川口小学校では、「高知県実践的防災教育推進事業」の指定を受け、防災に関する指導方法等の開発・普及等のための支援事業を実施しています。その取り組み内容の一部を紹介します。

## (I) 背景・問題意識

平成23年3月に起きた「東日本大震災」の発生、また、南海トラフ巨大地震が発生した場合、市全域が最大震度6強から7と10m以上の津波に見舞われるとの想定を受けた土佐清水市では、これまで以上に地震、津波に対する関心が高まり、市民参加による避難路、避難場所の見直しや防災学習、避難訓練への参加などが行われています。

高齢化率48.8%と住民の約半分が65歳以上の下川口地区にある下川口小学校は、海拔4m、海からの直線距離800mに位置し、最大浸水深は12mと想定され、土佐清水市でも危険度の高い場所の一つとなっています。

下川口小学校では、これまで地震（津波）避難マニュアルや避難路、避難場所の見直し、避難訓練の実施など、児童の命を守るための活動を行ってまいりましたが、保護者や地域と連携した取組はほとんど実施していないなどまだまだ多くの課題があります。

今年度においては、専門的知識を持った方の指導をいただきながら、地震津波に対する防災教育を一から見直し、さらには保護者・地域との連携も進めながら、「どんな状況でも主体的に考え・行動できる力（自分の命は自分で守る）」の育成を図っていきたいと考えています。

## (II) 事業の概要

### 主体的な判断で行動し、自分の命は自分で守ることができる児童の育成

～どんな状況でも「自分の命を守りきる力」を身に付ける～

- ① 児童・保護者の意識・実態調査を行い、課題を明らかにする。
- ② 地震・津波に関する学習を深め知識を養う。
- ③ 児童が自分で考え行動できるよう、様々な状況を想定しての避難訓練を行う。
- ④ 地域との合同訓練を行う。
- ⑤ 校区・地域の自然環境や防災体制について知識・理解を深める学習を行う。
- ⑥ 自分たちにできることは何かを考え、実際に行動に移す。
- ⑦ 各学級で「地震・津波・防災・減災」に関する研究授業を行う。
- ⑧ 学校地震（津波）防災マニュアルの見直しを行う。
- ⑨ 防災学習発表会や講演会を行い地域も含めて学習の場とする。

## (III) 研究授業

### 第5・6学年 学級活動指導案

平成26年6月16日（月） 第2校時  
児童数 5年4名 6年6名 計10名  
指導者 岡崎 福恵 不破 久善

- 1 題材名 南海地震に備えよう  
＜学級活動（2）日常生活や学習への適応及び健康安全  
力 心身ともに健康で安全な生活態度の形成＞

- 2 題材について（略）
- 3 学級活動（2）の評価規準（略）
- 4 事前指導（活動）（略）
- 5 本時の指導

- (1) 本時のねらい  
南海地震について知り、その時にどんな行動をとればよいか考える。
- (2) 展開

	学習活動	支援（○）と評価（◎）	指導上の留意点
導入	1、土佐清水市の自然について話し合う。 ・美しい海、観光 ・魚がおいしい ●集中豪雨・土砂崩れ 2、めあての確認をする。	○高知県の観光案内パンフレット等を資料として提示する。 ◎自然の脅威に備えることで、命を守ることができることを理解している。 【知識・理解】（発言）	・社会科や総合的な学習の時間等で学習した地域の良さや自然の二面性について確認する。
	南海地震のことを知り、次に来る南海地震に備えよう。		
展開	3、日本は地震の多い国であることを知る。  4、南海地震について知る。  5、自分の地域の揺れの想定から、南海地震発生後の周りの様子を想像する。	<p>☒＜近年日本で発生した大地震＞ ◎地震が多いことに気づけたか。 【知識・理解】 発言</p> <p>☒＜昭和南海地震の被災状況＞ ○東海、東南海等の他の震源域との連動で巨大化の可能性があること。 ○大津波や地盤変動が予想されていること。 ○100年から150年ごとに繰り返し返されていることに気づく。</p> <p>☒＜南海地震の揺れの長さ＞ ○スライドのクイズを使い考えさせることで、興味を持たせながら学習の理解を深めさせたい。</p> <p>＜気象庁震度階級関連解説表＞ ◎揺れによる建物倒壊や火災津波等の被害があったことに気づく。</p>	<p>・近年、日本で発生した震度6弱以上の地震を押さえる。 ・震度6弱より小さなものは、もっと多いことを知らせる。 ・地震が発生する仕組みや南海地震の特徴について知らせる。 ・過去の南海地震について取り上げ、地域で起きた被害について説明する。 ・南海地震で想定される揺れの長さや強さ、規模の大きさについて押さえる。 ・＜気象庁震度階級関連解説表＞の表から想定される震度の状況になったとき * どう行動することができるか。 * 事前に備えることはできないかを考えさせる。</p> <p>各市町村の広報や県のホームページなどの資料を使って、南海地震で想定される震度や津波高、津波到達時間などを確認する。</p>
	6、南海地震について分かったことをまとめ、近い将来南海地震が発生したとき、生き抜くため	南海地震の特徴をまとめる。 ・繰り返し発生している。 ・高知県には過去にも大きな被害が	

終末	に事前に準備しておくことをグループで考える。	発生している。 ・強い揺れ（最大震度7）。 ・長く揺れる。 ・大津波が予想される。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           強く大きな津波の危険がある南海地震から生き抜くために            ( ) をしておく。         </div>		
	( ) に出してほしい言葉 ・すぐ逃げる心構え ・勉強 ・家族と話し合い ・点検（家具、場所等） ・避難訓練（何回も） ・非常持ち出し物の準備  7、学習したことをノートにまとめる。	◎揺れから身を守る方法や避難方法、事前の備えなど、備えておくべきことを考えている。 <b>【関心・意欲・態度】</b> (ボード) ○想定外のことも起こりうる可能性がある。自分の判断で最善を尽くすこと。  ・家具固定や非常持ち出し袋の準備だけでなく、避難訓練に真面目に取り組んだり、災害時をイメージして工夫した生活をするなど、心や態度の準備も考えさせる。 ・子ども達の気付きを事後指導として、家庭への啓発につなげていく。(学級通信)

(3) 準備物

高知県や地域のパンフレット

防災学習南海地震に備えちよき①南海地震は必ず起こる

《スライド2・19・28・34》

(4) 板書計画 (略)

6 事後指導 (活動) (略)

< 6年学級通信 RAINBOW No. 17 6月18日 (水) >

防災の公開授業と大木聖子先生との防災の勉強

6月16日 (月)、他校の先生や地域の人たちが参観に来てくれました。

5・6年生は、「南海地震のことを知り、次に来る南海地震に備えよう。」というねらいで、南海地震のメカニズムや南海地震は繰り返し発生していること、その規模や揺れの実態などを資料や映像で見せました。その後、地震から命を守るためにどうすることが大事なのかをグループで考えてもらいました。

< 出た意見 >

- ・避難訓練をまじめにする。
- ・にげる。
- ・家具などを倒れてこないようにしておく。
- ・地震のことをもっと勉強する。
- ・防災グッズを準備しておく。
- ・地震のこわさを知る。

3時間目の大木先生の授業では、1年生から6年生の児童が分かりやすいように具体的に、「地震から命を守るポイント」を教えてくださいました。

- ①落ちてこない
- ②倒れてこない
- ③移動してこない

安全な場所で、ダンゴムシになり揺れから身を守る。その後、身近な教室の危険な場所を見つけ、大きな危険か？小さな危険？即座に考え選択できる力を育てることが大事だと教えてくださいました。

【感想】

私は、日本は、たくさんの地震が起きていることが分かりました。ブラジルには、なんで起きないのかなと思いました。

地震から命を守るために地震が起きたら、机の下にかくれて、すばやく逃げたいなと思いました。映像を見たとき、コンビニの机が大きくゆれていたのにびっくりして、こわいなと思いました。(女子)

大木先生の話聞いて、各教室の危ないところが分かりました。蛍光灯が危ないことも分かりました。正しいダンゴムシを教えてくださいましたのでちゃんとやりたいと思いました。(男子)

南海地震が起こったら、まず、安全な場所を見つけて、揺れから自分の命を守って、その後、津波から逃げる。(女子)

地震対策をしても、まわりには動くものや落ちてくる物がたくさんあることが分かりました。固定してないと大変なことになるなと思いました。(男子)

「命を守る」という、大切な学習です。今、自分たちが学習し行動できるようになっていることが、これからいつか来る南海地震から、子や孫が、そして地域の人たちみんなが、大切な命を守ることができることにつながっていくのだと信じ、いっしょに学習していきましょう。

家庭もまきこんでいきますので、よろしくお願いします。

《 5・6年生の授業風景 》



正しい  
ダンゴムシに  
なりました



大木先生との  
授業



頑張って  
発表しています

